

戦争法案・労働法制改悪反対

労働者先頭に頑張ろう



戦争法案廃案、労働法制改悪阻止などをかけて開かれた中央総決起集会参加の労働者＝24日、東京・日比谷野外音楽堂

全労連など総決起集会

全労連と国民春闘共同委員会、東京春闘共同会議は24日、戦争法案廃案、労働法制改悪阻止、最低賃金大幅引き上げ、公務員賃金改善を掲げて、中央総決起集会を東京・日比谷野外音楽堂で開き、1800人が集まりました。あいさつした全労連の小田川義和議長は、「安倍政権のふたつの暴走、戦争法案と労働法制改悪を許さない。戦争法案と労働者派遣法改悪案が衆院で強行採決されたが、追いつめられたのは安倍政権の側だ」と強調。学生や学者、女性、弁護士が立ち上がっていると指摘し、「労働者・労働組合が先頭に立って頑張ろう」と呼びかけました。

集会では、安全保障関連法案に反対する学者の会から広渡清吾専修大学教授・日本学术会议前会長が連帯あいさつ。「戦争法案は、日本は戦争をしないと、いう世界への約束であり国民の希望である憲法9条を踏みにじるものだ。しかし、採決できない状況に追い込まれたために、望みがでた」と強調しました。

参加組合が決意表明を行い、「最低賃金を全国で1000円以上にしよう」（自交総連）、

「戦争法案反対のストライキ権を確立した。戦前の発禁の歴史を忘れない」（出版労連）とアピールしました。

日本共産党の宮本徹衆院議員が国会情勢を報告しました。

集会後、最低賃金を速やかに全国一律で時給1000円以上を求める厚生労働省前行動や、国会請願デモを行いました。

7/25
赤旗